

学会受賞報告

(公社) 日本補綴歯科学会 学術賞

学会受賞報告

包括歯科補綴学分野 小野 高裕

去る令和4年7月15日、大阪国際会議場で開催された(公社)日本補綴歯科学会第131回学術大会において、表記の賞をいただきました。歯科補綴学の分野でuniversity dentistとして40年間歩んできた私としては、専門分野を代表する学会からこうした賞をいただけたことは、たいへん嬉しいことでした。

現職の最終年度にこのような栄誉に浴すること

が出来ましたが、本賞はとりもなおさず包括歯科補綴学分野の研究活動に対する評価ですので、改めていつも頑張ってくれている分野のスタッフに感謝したいと思います。また、これまでさまざまな共同研究でご一緒してきました歯学部内の他分野、他大学、企業の皆様にも、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



学術賞授賞式の記念写真

左より、水口教授(東京医科歯科大学)、河相教授(日本大学松戸歯学部)、馬場理事長(昭和大学)、小野。

第81回 日本矯正歯科学会学術大会 学術奨励賞受賞報告

歯科矯正学分野 水 越 優

この度、第81回日本矯正歯科学会学術大会にて学術奨励賞を受賞いたしましたのでご報告させていただきます。論文名は「In vivo cell proliferation analysis and cell-tracing reveal the global cellular dynamics of periodontal ligament cells under mechanical-loading」です。

歯根膜細胞の機械的刺激に対する迅速な応答が矯正歯の移動を可能としていますが、組織改変を担う細胞の由来は解明されていません。本研究は、力学的刺激に対する組織の初期応答の一つで

あり細胞供給に重要な細胞増殖活性の変化を解析しました。マウス臼歯にコイルを装着して矯正力を負荷し、歯根膜組織を観察しました。結果、機械的刺激の負荷されたマウス臼歯歯根膜の細胞供給は特定の細胞が担うのではなく、多様な細胞が担っていることが示唆されました。

最後になりましたが、齋藤功教授をはじめとする歯科矯正学分野の先生方、生体歯科補綴学分野の魚島勝美教授、加来賢准教授、ならびにご支援いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。



授賞式にて（筆者左）

2021年度日本歯周病学会誌賞を受賞して

歯周診断・再建学分野 高橋直紀

この度、2021年度日本歯周病学会誌賞を受賞しましたので報告いたします。本賞は日本歯周病学会が発行する学会誌に掲載された論文のうち、年ごとに優れた論文を表彰するものです。受賞論文は「超音波スケーラーから発生するエアロゾルの特性と口腔内外吸引装置による拡散防止効果の検討（日本歯周病学会誌第65巻4号掲載）」です。

超音波スケーラーから発生するエアロゾルが新型コロナウイルスの交差感染リスクとして懸念されており、そこから本研究の着想を得ました。異分野融合研究を推進する新潟大学U-goグラントの助成を受け、本学工学部の先生方のご協力の下、微粒子可視化システムを用いた流体力学的検討によって超音波スケーラーから発生するエアロゾルの特性を明らかにしました。また感水試験紙およびパーティクルカウンターを用いた模擬臨床試験において、口腔内外バキュームの使用により超音波スケーラー由来のエアロゾル飛散が大きく減少することを確認し、吸引装置の適切な使用が交差感染リスクを抑制できる可能性を示しました。

本実験の遂行において、共同研究者である工学

部の山縣貴幸先生および加藤光太先生にこの場を借りて感謝申し上げます。また、研究立案・データ解析および論文執筆においてご指導を賜りました多部田康一教授ならびにご協力頂きました全ての先生方に心より感謝申し上げます。



筆者（左）とご指導いただいた多部田教授（右）

最終選考最優秀賞1位受賞報告

歯学科6年 青 森 裕 大

この度、日本補綴歯科学会主催の学生技能コンペティション「第4回 JPS student clinical skills competition」において、最終選考最優秀賞1位を受賞しましたので、ご報告いたします。

課題はCAD/CAM冠を想定した下顎左側第一小臼歯の支台歯形成でした。形成練習では、人工歯や形成用のバー等を用意していただいただけでなく、形成した歯を1本1本評価し、ご指導いただくなど、非常に恵まれた環境で練習することが

できました。また、今年は最終選考が開催され、他大学の学生や先生方との交流により多くの刺激を受けるなど、良い機会にも恵まれたと感じています。

最後に、お忙しい中ご指導いただきました魚島先生、江口先生はじめ冠ブリッジ診療科の先生方に厚く御礼申し上げます。この結果に満足することなく、患者さんの健康な生活に貢献できる歯科医師になれるよう、今後ともより一層精進してまいります。



受賞報告の様子

第17回先端歯学スクール2022 優秀賞受賞報告

生体歯科補綴学分野 小野 喜樹

この度、第17回先端歯学スクール2022にて優秀賞を受賞致しましたので御報告申し上げます。先端歯学スクールは、本邦の基礎および臨床歯学の教育研究を最先端のそれに匹敵する水準に維持することを目的とする先端歯学国際教育研究ネットワークが主催する若手人材交流の場で、教育講演とともに各大学で選抜された大学院生による研究発表が行われます。

私は、「歯周組織再生過程におけるWnt/ β -cateninシグナルの亢進はセメント質の形成を促進する」という演題で発表をさせて頂きました。歯根膜は口腔機能において重要な役割を担っていますが、未だ予知性の高い再生方法は確立されておられません。そこで本研究では、歯根膜の再生メカニズム解明の端緒として、歯根膜の再生に重要であると考えられるセメント質の再生に寄与するシグナルの同定を試みました。マウスの腎被膜下に臼歯を移植して異所性に再生させた歯周組織をモデルとして各種解析を行い、Wnt/ β -cateninシグナルがセメント質再生に重要な役

割を果たしている可能性を明らかにしました。

最後に、先端歯学スクールでの発表の機会をいただきました多部田康一教授および構成委員の先生方、また本研究の遂行にあたり御指導賜りました魚島勝美教授、加来 賢准教授、研究にご協力いただきました先生方に心より厚く御礼申し上げます。



著者（右）

日本結合組織学会第54回学術大会 Young Investigator Award受賞報告

日本補綴歯科学会第131回学術大会 課題口演賞受賞報告

生体歯科補綴学分野 土 橋 梓

この度、日本結合組織学会第54回学術大会ポスター発表にてYoung Investigator Award、日本補綴歯科学会第131回学術大会にて課題口演賞を受賞致しましたのでご報告申し上げます。

歯科臨床の場で遭遇する局所的な歯槽骨の吸収や病的な歯の動揺は、既知のメカニズムである歯周病原細菌による炎症や、応力の集中だけでは説明できないことも少なくありません。そこで私たちは通常の咬合力負荷でも重度の歯周組織破壊を呈するPeriostin-Knockoutマウスをモデルとし、多階層の包括的データを統合的に解析するマルチオミックス解析の手法を用いて、組織破壊に関わる経路のノンバイアスな探索を試みました。解析の結果、Periostinの欠失は細胞外環境の変化としてLaminin-Integrin系により検知され、細胞外マトリックスの分解系を活性化させている可能性が示唆されました。今後は本研究で示唆された経路について実験科学的手法により検証を進め、その上流にある因子を同定して臨床的な意義を見出したいと思っております。

最後に本研究の遂行にあたり御指導賜りました

本分野の魚島勝美教授、加来 賢准教授をはじめ、ご協力いただきました先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



第131回日本補綴歯科学会表彰式にて

学会受賞報告

口腔生命福祉学講座 中村 夢衣

この度、第71回日本口腔衛生学会・総会における研究発表（口演）において優秀発表賞に選ばれましたことご報告いたします。

発表演題は、「脳卒中と歯の喪失および身体活動量について：魚沼コホート研究」です。脳卒中と歯の喪失との関連では相反する結果が報告されており、今回の研究では脳卒中発症と歯の喪失の関連について、身体活動量を媒介要因としてそれぞれの関連について検討を行いました。その結果、脳卒中発症に歯の喪失が関連し、身体活動量

が関連要因として関わる可能性が示唆されました。今後は新たな視点からの検討をしていければと考えております。

最後になりますが、今回ご指導いただきました口腔生命福祉学講座の葭原明弘教授、柴田佐都子准教授、諏訪間加奈先生、東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チームの岩崎正則先生に感謝申し上げます。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



著者本人